

日本選手コメント【7月14日】

◆村岡桃佳選手(トヨタ自動車) T54 100m 予選＝決勝進出

「向かい風の中で押し切れずに苦しいレースだったが決勝に残れたことは良かった。夜の決勝に向けて気持ちの面とコンディションを整えて臨みたい。ゴールした時、決勝は厳しいなと思ったので通過したときはホッとしました。」

100m決勝後 「1日ですべての予選決勝の2本のレースは厳しい、難しかったと感じました。世界のトップ選手達と走れたことはすごく大きな経験になりました。これから更に挑戦していきたいという気持ちです。世界選手権直前にレーサーを変更して臨んだ。その挑戦は間違いではなかったと思うが、乗り込める時間が少し足りなかったかな。この大会は今後に向けて良い活力になったと思う。自分でも成長している感はあるのでこれからも挑戦していきたい」

◆福永凌太選手(中京大クラブ) T13 400m 予選＝決勝進出

「タイムについては決勝で出せればよかったタイム(47秒79＝アジア新記録)だったが、スタートした時から気持ちよく走れて自分の動きも悪くなかったので周りの選手を気にすることなく走れた。昨日が緊張のピークで不安だったり恐怖感がでていたが、いざ、ここにきてアップし始めたら落ち着いた。明日は優勝したい」

◆辻 沙絵選手(日本体育大学) T47 400m決勝

「前半リラックスした走りは出来ていて後半ラスト50mがポイントになってくるかなと思っていて最後の最後で粘り負けというか相手を意識しすぎて固くなってしまった事が反省。プラン通りだったがラストで急に動かなくなってしまった。最後の最後で負けてしまった感じ」

◆齋藤由希子選手(SMBC日興証券) F46 砲丸投げ決勝 銅メダル

「ギアがかかるのが遅くなったのが悔しい気持ちだが、4位以内に入ることが目標だったので今日の出来として100点です。今日の目標は11m78と(コーチの)主人に言ってきたのでランキング2位で、今日も2位で帰ることも目標の一つだったのでその部分でも悔しいが、産後1年でここまでよくやったと今は思っている。元世界記録保持者として、日本代表の投てきチーム選手たちの中で一番のベテランなのでプレッシャーはあったと思う。」

◆山本萌恵選手(愛知陸上競技協会) T20 1500m決勝

「自己ベストが出なくて悔しかったです。抜かれたくなくて最後は頑張りました。来年のパリオリンピックには絶対出てメダルを取りたいです。」